

【福祉サービス 施設・事業所基本情報及び保育園の評価】

◆経営法人・設置主体

法人名称 社会福祉法人 友愛会
 法人の代表者名 理事長 中村 勝彦
 設立年月日 平成 14年 4月 1日
 (昭和 49年 4月 1日)

◆施設・事業所 保育園

施設名称 城内シオン保育園
 施設所在地 〒847-0016 佐賀県唐津市東城内17-12
 施設長名 前川 かおる

T E L 0955-73-3083

F A X 0955-73-3092

定員 (利用人数) 80 名

職員数 常勤職員 保育士 17名 給食調理員 2名 事務員 1名 雇用員 1名
 計 21名

非常勤職員(短時間職員) 保育士 4名 看護師 1名 雇用員(保育補助者) 1名
 計 6名

園長 1名

合計 28名

施設・設備の概要

保育室・多目的室・みんなのへや	事務室・保健室	調理室	防犯カメラ
調乳室 乳幼児用トイレ・沐浴室	冷暖房装置	自動換気システム	保育室給湯装置
0, 1歳児保育室前デッキ	屋上園庭 園庭	第二園庭・菜園	

◆施設・事業所の理念・基本方針

法人の理念

イエス・キリストの生き方の土台である「愛と赦し、そして優しさ」を主体としたキリスト教主義の保育園を運営する

保育理念

一人ひとりの個性を大切に、今を喜び、希望をもって未来に向かう

保育方針

- ・子どもの主体的な遊びを中心とした保育を進める
- ・個性を尊び、固有の価値観を認め、大切にする
- ・食に関わる様々な事に関心を持ち、食事を楽しむ
- ・保護者の子育てを支援する
- ・地域社会の中で豊かな社会性を育む

保育目標

・子ども一人ひとりのありのままの姿を認め、様々な関わりの中で、興味と関心を持って過す

◆施設・事業所の特徴的な取組

- ・周辺の自然を利用した保育の展開 …
 - 西の浜（砂浜を使った運動遊びや砂遊び）
 - 宝当渡し周辺への散歩
 - 唐津城周辺への散歩 等
- ・ドキュメンテーション（ラーニングストーリー）による保育計画と保育の記録
- ・instagramやFacebook、HPを使った保育の発信、保育の見える化を促進

福祉サービスに関する総評(良い点・悪い点)	
理念・基本方針について	
1項目7つの視点 64%が「理解している」「大体わかっている」と評価。	
【良い点】理念や基本方針がパンフレットやHPに記載され、使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。また、その内容の継続的な取組を行っているが高評価している。	
【悪い点】わかりやすい資料の作成と配布、保護者への説明は、行っているものの改善の余地がある。	
経営状況の把握について	
2項目各4つの視点 44%が「理解している」「大体わかっている」と評価	
【良い点】事業全体の動向の把握や利用者の推移や分析に対しては、一定の評価がある。	
【悪い点】経営課題の把握、改善に向けた取組に関しては「わからない」との評価が多い。経営課題や取組について、周知方法を改善する必要がある。	
経営計画の策定について	
2大項目各2小項目、それぞれに3～5の視点 49%が「理解している」「大体わかっている」と評価	
【良い点】事業計画職員や保護者に対してわかりやすく説明（説明の工夫）がなされているとの評価がある。	
【悪い点】「中長期計画を踏まえた単年度計画が策定されている」に対し、「わからない、知らない」との評価が多かった。事業計画について、長期を見据えた計画とその計画に向けた単年度の計画を示していく必要がある。	
質の向上への組織的・計画的な取り組みについて	
2項目各4～5の視点 60%が「理解している」「大体わかっている」と評価	
【良い点】組織的にPDCAサイクルに基づく保育の質の向上に取り組んでいる。評価結果を分析・検討する場がある。改善策や改善の実施状況の評価を実施し、改善策の見直しを行っているとの評価が高かった。	
【悪い点】全体的に評価が散らばっているが、経験の浅い職員や勤務短時間の職員の評価は低い。質の向上に関する取組や計画的取組は、職員全体の満足感や達成感にも繋がるので、全職員が園の取り組みを理解するような方法が求められる。	

組織の運営管理について

2大項目各2小項目各4～5の視点

80%が「理解している」「大体わかっている」との評価

【良い点】管理者の責任とリーダーシップについて、高評価だった。

【悪い点】評価集計者が管理者であるため、正しい評価ができていない。

福祉人材の確保・育成について

4つの大項目 各小項目1～3 各4～8の視点

73%が「理解している」「大体わかっている」と評価

【良い点】『職員の質の向上に向けた体制が確立している。』の大項目は、74%の職員が「理解している」「大体わかっている」と評価をしている。その中でも「個別面接を行う等保育所のモック表や方針を徹底し、コミュニケーションの元で職員一人ひとりの目標が設定されている」「職員一人ひとりの目標設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている」「現在実施している保育の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に保育所が職員に必要とされる専門技術やキャリアアップ研修受講を明示している」などは高評価となっている。

【悪い点】『実習生等に関わる専門研修・育成が適切に行われている』の大項目が45%と評価が低く、その中でも「専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している」は、40%が「理解している」「大体わかっている」の低評価となった。実習性の育成計画や新規採用者の育成計画など経験の浅い職員に対する育成計画を明確にすることが必要。そうすることで、意欲ややる気に繋がっていくのだろう。

運営の透明性の確保について

2つの項目に対し、それぞれ3～4の視点

63%が「理解している」「大体わかっている」と評価

【良い点】『運営の透明性を確保するための情報公開が行われている』に対しては64%が評価している。特にホームページなどSNSを使った公表は評価が高かった。

【悪い点】運営の透明性に関しては「地域に向けて、理念や基本方針、活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している」40%、公正かつ透明性の高い適切な経営・運営のための取組に関しては「事務、経理、取引等に関するルールが明確にされて、職員に周知している」38%との評価だった。地域に対する活動や事務経理に関する規定等を職員と共有出来ていないことが評価が低かった原因だろう。職員への周知に努めていく必要がある。

地域との交流・地域貢献について

3つの大項目各1～2の小項目 各3～6の視点

46%が「理解している」「大体わかっている」と評価

【良い点】『子どもと地域の交流を広げるための活動を行っている』は51%の評価があった。また、「学校教育への協力を行っている」は中学制、高校生の就労体験の受入や支援学校教諭の

【悪い点】『ボランティア等の受入に対する基本姿勢を明確にし、体制を整えている』は33%と低評価だった。特に基本姿勢の明文化やマニュアルの作成に対する厳しい意見となった。

適切な福祉サービスの実施について

5つの大項目に対し1～2の小項目 各3～8の視点

71%が「理解している」「大体わかっている」との評価

【良い点】こども重視の姿勢、保育内容の説明と同意の適切さ、苦情等利用者が意見を言いやすい体制の確保、安心安全な保育のための取組などにおいて70%以上の高評価だった。これは保護者との関係性、子どもとの関係性及び日々の保育に対するそれぞれの努力を評価しての事だろう。各自が自信を持って、保育に向かっている姿勢に感謝したい。

【悪い点】「利用者満足の向上に努めている」項目の「保護者に対し、利用者満足に関する調査が定期的に行われている」が44%の評価だったのは、大々的にアンケート調査などを行わず、それぞれの行事などに対して“はなまる連絡帳でアンケート調査”を行っているのだが、そのことを全体に周知してこなかったのかもしれないと反省する。保護者の思い等は全職員で共有できるようにしていく。

福祉サービスの質の確保について

3つの大項目に対しそれぞれに2つの小項目 4～8の視点

67%が「理解している」「大体わかっている」と評価

【良い点】「保育について文章化されて、提供されている」「保育内容について見直しをする仕組みができています」「アセスメント的な評価に基づいて指導計画を立てている」「定期的に指導計画の見直しを行っている」など記録における評価が高かった。時間が許す範囲で、出来るだけ子どもたちの成長を記録し、日々の保育を振り返り、評価に繋げていることの表れだろう。

【悪い点】保育実施記録などの記録の管理体制に不安があるようで、評価が低かった。そこで、2024年度（令和6年度）より児童票などは事務室の鍵付き書棚で保管、ICT化したものは園内WIFI及び許可機材以外では閲覧できないようにした。

備考（自由記入）

・自身もマニュアルや仕組づくりができているのか、それをどのようにしゅうちしていくのか、その時間をどう確保するのか、が難しいと思った。

・自分が理解していないこと、今後学んでいくことを改めて知ることができたように思う。

・園全体としての情報共有が今後できていけたらと思う。

・把握できていない事項が多い事に気づいた。自ら意欲的に情報収集に努めて、保育に生かしていきたいと思う。

保 育 園 自 己 評 価 の 分 析

評価の17視点の結果に基づいた総評を記入してください（良い点・改善点など）

（保護者の視点）

17項目中全ての項目で「非常に良かった」との評価があり、「非常に良かった」「普通」を合わせると91%となった。しかし、「改善の余地あり」との評価も約1%弱あった。これを踏まえ、今後はもっと受講した研修についての発信を行い、研修内容を保育に生かしている姿を伝えていく。

（保育者の視点）

全項目では「非常に良かった」「普通」の評価が69%あったが、4項目に「改善の余地あり」との評価もあった。職員間の連携、情報の共有、環境構成や準備に時間を取れないなどの思いがあるのだろう。しかし、同じ項目で同水準又それ以上に「普通」「非常に良かった」の評価もあり、立場の違いや勤務体制の違いで評価に異が生じている可能性がある。改善していくためには、4階級以上の職員の豊かなマネジメント力と結束が必要だろう。

保 育 園 自 己 評 価 ・ 分 析

※評価17の視線の結果に基づいた総評を記入（良い点・改善点など）

（保護者の視点）

17項目では、91%の保護者が「非常に良かった」「良かった」と評価したが、『職員の研修内容とその成果は、保育に反映されていたか』に関して1%弱の保護者が改善の余地ありと評価した。どの様な研修を受けて、どのように子どもたちに還元しているのかを公表していく必要があるのだろう。また、前出の『職員の研修内容とその成果…』『保育内容の公表の努力と方法の適切』『必要な保育の記録』『職員間の話し合い』『計画に基づいた保育と評価を活かした見直し』などに関しては「わからない」との評価が7%ほどあった。保育の状況やどのような保育方針、保育計画の元に日々の保育を進めているのかをわかりやすく、伝えていく必要があるのだろう。

（保育者の視点）

全項目では「非常に良かった」「普通」の評価が69%あったが、それぞれの項目に分けると4項目『保育者間で必要な連携が取れていたか』47%『必要な情報を共有できたか』36%『十分な話し合いの上で計画ができていたか』31%『日々の保育に必要な環境構成及び保育の準備は適切であったか』31%が「改善の余地あり」と評価した。職員間の連携が足りない、情報の共有が足りない、保育に必要な環境構成や準備に時間を取れないなどの思いがあるのだろうが、同様に同じ項目で同水準又それ以上に「普通」「非常に良かった」の評価もあり、立場の違いや勤務体制の違いで差異が生じている可能性がある。会議や園内研修を充実させる必要がある。職員間で会話（話し合いではなく何気ない会話が必要だと思う）のできる職場環境を作っていく必要がある。そのために4階級以上の職員は豊かなマネジメント力を身に付けていく必要がある。

保育園全体の評価（保護者の視点）

保育園の自己評価

問 題		非常に良かった	普通	改善の余地あり	分からない
1	園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われていたか。				
2	職員の研修内容とその成果は、保育に反映されていたか。				
3	保育内容の公表に努力をしていたか。その方法は適切であったか。				
4	小学校や地域の関係機関との連携に向けて、必要な努力を行っていたか。				
5	情報を必要とする人に十分な情報の提供ができていたか。				
6	園全体として『一人ひとりの子どもを大切にす』という保育理念や目標は、達成されていたか。				
7	保育者間で必要な連携が取れていたか。				
8	園（職員）と必要な情報を共有できていたか。				
9	日々の保育は十分な話し合いの上で展開されていたか。				
10	必要な記録は残されているか。				
11	保育室の環境構成（物の配置等を含）は適切であったか。				
12	計画どおりに予定は進んだか。また、“前年や前期の反省評価は生かされたか”を視点に記入する。 (具体的に)				
13	日々の保育に必要な環境構成及び保育の準備は適切であったか。				
14	子どもの状況に応じて柔軟な保育ができたか。				
15	養護と教育への配慮は十分だったか。また、必要な内容が活動の中にはいていたか。				
16	個々の発達過程を理解し、発達段階に沿った体験をすることができていたか。				
17	保護者との連携は十分に取れていたか。				
集 計					

保育園の自己評価 (職員の視点)

該当する箇所に○を付けてください。(各問いに1つだけ)		非常に良かった	普通	改善の余地あり	分からない
1	園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われていたか。 (中・長期事業計画等を参照の上)				
2	職員の研修内容とその成果は、現場に反映されていたか。				
3	保育内容の公表に努力をしていたか。 その方法は適切であったか。				
4	小学校や地域の関係機関との連携に向けて、必要な努力を行うことができていたのか。				
5	情報を必要とする人に十分な情報の提供ができていたか。				
6	園全体としての今年度の保育の目標やねらいは、達成されていたか。				
7	保育者間で必要な連携が取れていたか。				
8	必要な情報を共有できていたか。				
9	十分な話し合いの上で計画が作成されていたか。				
10	必要な記録を残すことができていたか。				
11	保育室の環境構成(物の配置等を含)は適切であったか。				
12	年間計画に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。 また、“前年や前期の反省評価は生かされたか”を視点に記入する。	(具体的に)			
13	日々の保育に必要な環境構成及び保育の準備は適切であったか。				
14	子どもの状況に応じて柔軟な保育ができたか。				
15	養護と教育への配慮は十分だったか。				
16	個々の発達過程を理解し、発達段階に沿った体験をすることができていたか。(月間計画、日誌、個別計画、児童票などから考察する)				
17	保護者との連携は十分に取れていたか。				
集 計					
(その他)					